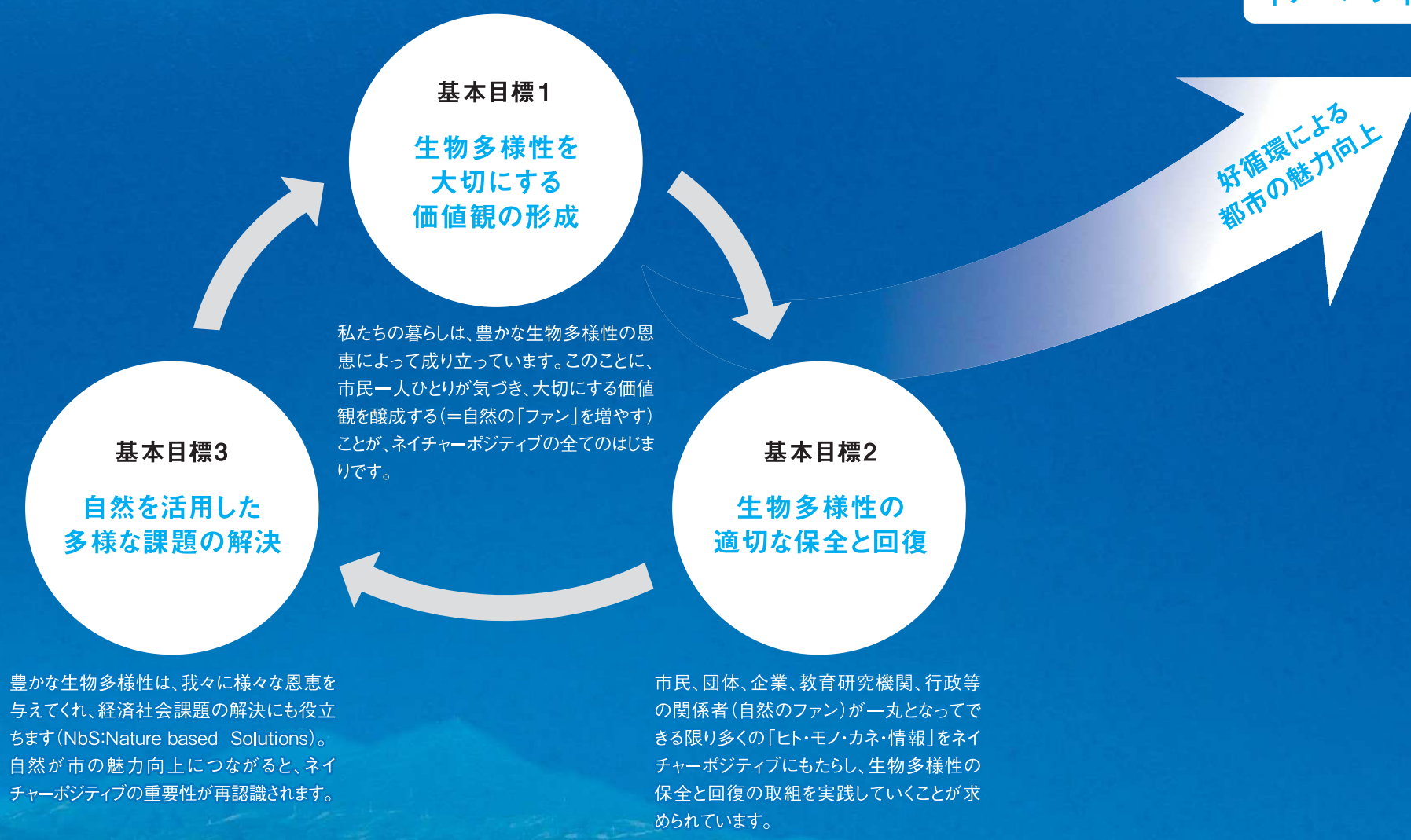


第4章 北九州市生物多様性 戦略2025-2030の基本的事項

基本方針

- 北九州市の生物多様性を適切に保全・回復し、持続可能な方法で利用するとともに、その魅力を効果的に発信することで、市民が自然に触れ、楽しむ機会を増やします。
- また、自然を活かした地域づくりを通じて、都市ブランドの向上を図り、市のイメージアップや発展につなげます。
- さらには、生物多様性に関する企業ニーズを先取りし、ネイチャーポジティブ経営への移行を推進することで、市内企業の価値向上や競争力強化に貢献します。

北九州ネイチャーポジティブサイクル



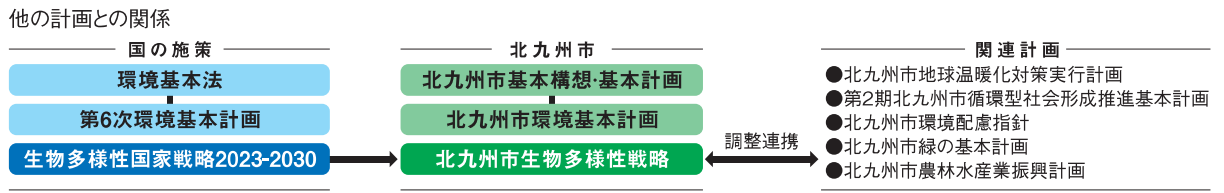
「アーバンネイチャー」×「ネイチャーポジティブ」による「都市と自然との共生」

つながりと情熱と技術で、「一歩先の価値観」を体現する
グローバル挑戦都市・北九州市



戦略の基本的枠組み

対象期間：2025年度から2030年度までの6年間
対象区域：北九州市全域を基本とし、必要に応じて広域的な取組を推進
位置付け：生物多様性基本法（平成20年法律第58号）第13条第1項に基づく生物多様性地域戦略



基本施策

基本目標

1

生物多様性を大切にする価値観の形成

- 生物多様性に対する市民の理解を深め、人と自然とのつながりを大切に思う価値観を醸成します。
- 民間企業、教育・研究機関、地域コミュニティ等と連携して、市民が自然や生き物と触れ合う機会を創出し、関心を深めます。
 - 生物多様性の保全・回復に貢献する行動やライフスタイル（食品ロスの減少、地産地消の推進など）への転換を促します。
 - 都市に近接した豊かな自然（アーバンネイチャー）という特徴を活かし、市内の自然環境の魅力発信を強化します。

基本目標

2

生物多様性の適切な保全と回復

- 北九州市の生物多様性を保全するだけでなく、回復に向けた取組を推進します。
- 民間企業等と連携して、OECMの拡大に取り組みます。
 - 里地里山の回復など、生物多様性の保全・回復に貢献する取組を行う市民や民間企業等をサポートします。
 - 希少種の保全や特定外来生物の防除に取り組みます。

基本目標

3

自然を活用した多様な課題の解決

- 豊かな自然を活用した、市の魅力向上や持続可能な社会の実現等の多様な課題を解決することで、市の成長へとつなげます。
- 戦略を推進し、自然を切り口に多様な関係者が様々な課題解決を行うための拠点やネットワークを設置します。
 - カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーと統合的にネイチャーポジティブを推進します。
 - 持続可能な環境保全型の農林水産業を拡大します。
 - 適切な間伐による森林や竹林の管理を行います。
- ネイチャーポジティブ経営を推進します。
 - 自然の魅力を体感できる施設の利用者数を増やします。
 - グリーンインフラを活用した防災や適応策等を推進します。
 - 生物多様性の魅力を活かした観光や農林水産業等を振興します。
 - ネイチャーポジティブの取組を通じて、観光客、移住者、進出企業の増加に貢献します。

基本指標



推進体制

戦略の推進体制として、北九州ネイチャーポジティブネットワークを創設するとともに、

※「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律(令和6年法律第18号)」に基づく、「地域生物多様性増進活動支援センター」として位置づけます。

北九州ネイチャーポジティブセンター

目的：戦略の推進に向けた活動拠点の整備
構成：響灘ビオトープその他生物展示施設等
活動内容：市内の生物多様性に関する情報の収集・整理・分析及び普及啓発・プロモーションを実施するとともに、市民のネイチャーポジティブ活動や企業のネイチャーポジティブ経営に関する助言等を行う。加えて、ネイチャーポジティブネットワークの事務局としての機能も担う。



その中心的機能として、北九州ネイチャーポジティブセンター(※)を設置します。

北九州ネイチャーポジティブネットワーク

目的：戦略の推進に向けて産学官民が連携して取組を推進する体制の構築
構成：事業者、教育・研究機関、コミュニティ(地域団体、NPOなど)、行政等
活動内容：豊かな自然を活用し、市の魅力向上や持続可能な社会の実現等の課題解決に向けて、各主体が一体となり、相互に連携、補完しながら、戦略に位置付けた取組を推進する。



ネイチャーポジティブセンターを担う施設の一例

響灘ビオトープ

響灘地区の廃棄物処分場跡地に、廃棄物の埋め立て後にできたデコボコの地形により、湿地や淡水池、草原などの多様な環境が生まれ、さまざまな生きものが生息するようになりました。こうして、自然創成となる日本最大級の広さ41haの響灘ビオトープが誕生しました(2012年10月開園)。今では、約800種の生きものの生息が確認されており、その中にはベッコウトンボやチュウヒといった絶滅危惧種も含まれています。

また、豊富な自然を活用した体験型のイベント等も実施しており、市民が自然と触れ合うことができる機会を設けています。

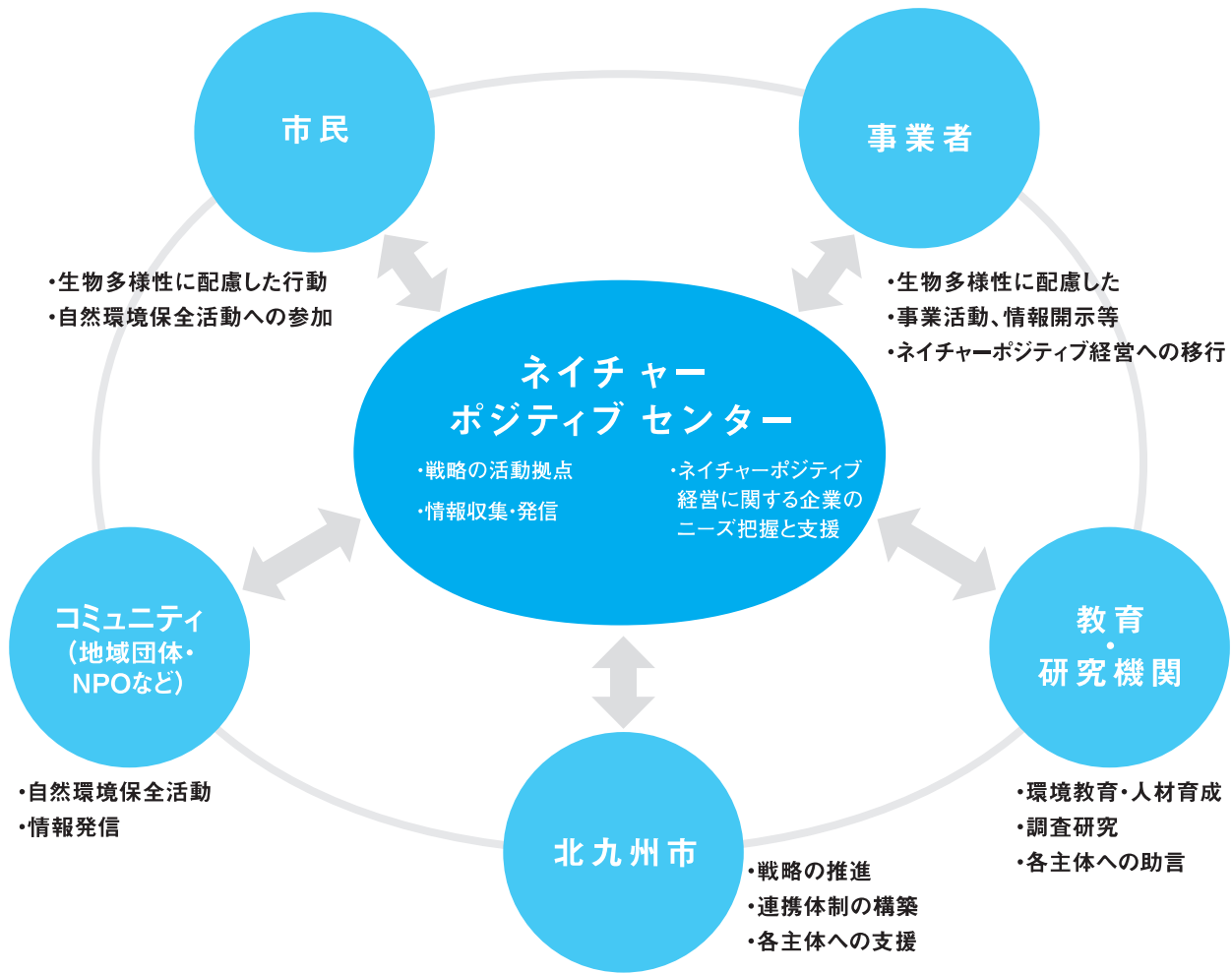
このように、自然環境を保全しながら、生物多様性の確保や、自然環境保全に関する学習など、見て楽しみながら学べる施設です。

2024年8月には、生物多様性を効果的に保全しうる地域であるOECMに登録されることになり、生物多様性保全上の重要性が広く認められることとなりました。



響灘ビオトープ(航空写真)

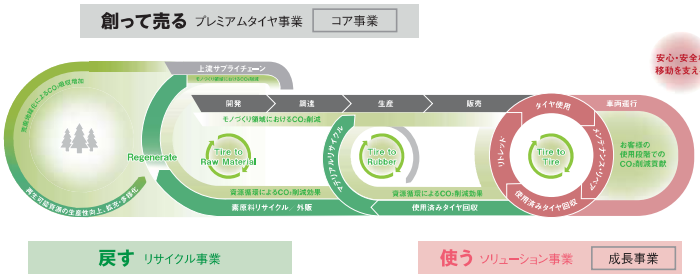
北九州ネイチャー ポジティブネットワーク



市内企業のネイチャーポジティブ経営の事例紹介

株式会社ブリヂストン 北九州工場

企業理念(使命)として、「最高の品質で社会に貢献」することを掲げており、商品を「創って売る」、「使う」、原材料に「戻す」というバリューチェーン全体でカーボンニュートラル化、サーキュラーエコノミーの実現、ネイチャーポジティブの推進を進め、独自のサステナビリティビジネスモデルをより循環型・再生型へと進化させています。



具体的には、TNFD提言に沿った情報開示を推進するとともに、特に水資源、天然ゴムにフォーカスして、SBTs for Natureの枠組みに沿った活動を実施しています。また、生物多様性貢献活動推進プログラムとして、拠点間で活動による貢献レベルを高め合い、現場レベルに取組が浸透するような、社内認定制度を設けています。北九州工場では、定期的に、響灘ビオトープ内に生息する外来種であるジャンボタニシを駆除し、響灘ビオトープの水生生物や希少種を守る取組などを行っています。

